

平成 26 年 8 月 12 日

各 位

会社名 株式会社シード  
 代表者 代表取締役社長 浦 壁 昌 広  
 (コード番号 7743・東証二部)  
 問い合わせ先 取締役管理本部長 鎌田 清  
 TEL 03-3813-1111 (大代表)

## 平成27年3月期第2四半期累計期間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成26年5月14日付当社「平成26年3月期決算短信」において発表いたしました、平成27年3月期第2四半期累計期間及び通期業績予想（ともに連結・個別）の修正について、下記のとおりお知らせいたします。

記

### 1. 平成27年3月期第2四半期累計期間（連結・個別）業績予想の修正

#### ①連結第2四半期累計期間業績予想の修正

(単位：百万円※単位未満切捨て表示)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想 (A)	10,000	480	440	200	23.38 円
今回修正 (B)	9,150	240	195	95	11.10 円
増減額 (B - A)	△850	△240	△245	△105	—
増減率	△8.5%	△50.0%	△55.7%	△52.5%	—
参考：前年同期実績	8,950	480	433	195	24.40 円

#### ②個別第2四半期累計期間業績予想の修正

(単位：百万円※単位未満切捨て表示)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想 (A)	9,400	520	480	250	29.22 円
今回修正 (B)	8,550	275	235	125	14.61 円
増減額 (B - A)	△850	△245	△245	△125	—
増減率	△9.0%	△47.1%	△51.0%	△50.0%	—
参考：前年同期実績	8,297	519	474	250	32.54 円

## 2. 平成27年3月期通期（連結・個別）業績予想の修正

### ①連結通期業績予想の修正

（単位：百万円※単位未満切捨て表示）

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株当たり純利益
前回予想（A）	21,400	1,220	1,100	500	58.45円
今回修正（B）	20,700	940	825	425	49.68円
増減額（B－A）	△700	△280	△275	△75	—
増減率	△3.3%	△23.0%	△25.0%	△15.0%	—
参考：前期実績	19,182	1,158	1,075	455	58.84円

### ②個別通期業績予想の修正

（単位：百万円※単位未満切捨て表示）

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株当たり純利益
前回予想（A）	20,000	1,250	1,150	560	65.46円
今回修正（B）	19,400	980	880	475	55.52円
増減額（B－A）	△600	△270	△270	△85	—
増減率	△3.0%	△21.6%	△23.5%	△15.2%	—
参考：前期実績	17,823	1,202	1,136	553	71.45円

## 3. 修正理由

〔個別〕

第2四半期累計期間の業績予想につきましては、3月末に集中した消費税率引上げに伴う駆け込み需要による売上の反動減が、当初想定していた以上に大きく、かつ長期化したために、その差異分を減額することとし、売上高は当初予想の9,400百万円から8,550百万円（△850百万円）に修正をするものであります。

この減収による影響で、粗利益が約350百万円減少することとなり、各利益につきましても当初予想を下回る見込みであります。

通期業績予想につきましては、第3四半期以降、使い捨てコンタクトレンズの一般的な購入サイクルとされる3～6ヶ月が経過することで、駆け込み需要の影響も一巡し、市場全体の消費動向は回復基調に転じるものと思われまます。実際に、当社7月度の使い捨てコンタクトレンズ全体の売上（卸売ベース）は、増税前数ヶ月の月商ペースを上回っております。

下期の売上高につきましては、乱視用コンタクトの乱視度数追加の投入時期が前倒しされることと、サークルレンズのラインアップ拡充も早期に実現することが見込まれるため、当初計画に対し250百万円上回るものと想定しております。しかしながら、第2四半期累計期間の減少幅を補うには至らず、通期の売上高は、当初予想の20,000百万円から19,400百万円（△600百万円）となる見込みであります。

利益につきましては、売上回復に伴う生産量増加や工程の一部内製化による原価低減が見込めるため、粗利益ベースでは、第2四半期累計期間の落込み分を取り戻すこととなりますが、将来の成長力伸長を見据えた、生産力拡大のための鴻巣研究所2号棟の生産体制整備、新商品上市のための開発力や販売力強化のための研究開発費（前期対比650百万円増）、広告宣伝費（前期対比60百万円増）等の先行投資要素を踏まえた費用につきましては、ほぼ当初計画どおりに投下をするため、営業利益は980百万円（△270百万円）、経常利益は880百万円（△270百万円）、当期純利益は475百万円（△85百万円）と当初予想ならびに前年実績を下回するために修正をするものであります。（なお、今回より個別の業績予想につきましては、営業利益を開示することとしております。）

[連結]

連結予想につきましては、個別の業績予想に、各子会社の第1四半期累計期間迄の推移や国内小売市場における市況動向等を勘案した予想数値となっております。

**【業績等の予想に関する注意事項】**

当該資料に掲載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、業況の変化等により予想数値と異なる場合があります。

以 上